



取扱説明書

⚠ ご使用前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

CYGNUS X

モーターサイクル

CYGNUS X (GQR125-C)

DR2-F8199-J0●

安全運転のために **1**

各部の名称 **2**

各部の取り扱いと操作 **3**

日常点検 **4**

運転操作 **5**

点検整備 **6**

お車の手入れ **7**

製品仕様 **8**

ユーザー情報 **9**

索引 **10**

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。



この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。

車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。

また、メンテナンスノート、セーフティガイド（スクーターをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。

本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

	安全にかかわる注意情報を示してあります。
 警告	取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。
注意	取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
要 点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。

※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために 1-1	リヤクッションの調整..... 3-18	ブレーキレバーの遊び、きき具合 の点検..... 6-11
あなた自身と同乗者のために..... 1-1	スタンディングハンドル..... 3-19	ブレーキパッドの点検..... 6-12
歩行者と他の車のために..... 1-5	USB Type-C ジャック..... 3-19	ブレーキ液量の点検..... 6-12
環境・住民の方との調和のために..... 1-6	サイドスタンド..... 3-20	バックミラー..... 6-13
各部の名称 2-1	日常点検 4-1	車体各部の給油脂状態の点検..... 6-14
左側面..... 2-1	日常点検の実施..... 4-1	バッテリー..... 6-14
右側面..... 2-2	日常点検箇所／点検内容..... 4-1	ヒューズ交換..... 6-15
運転装置と計器類..... 2-3	運転操作 5-1	灯火装置および方向指示灯の 点検..... 6-17
各部の取り扱いと操作 3-1	ならし運転..... 5-1	運行において異常が認められた 箇所の点検..... 6-18
キーの取り扱い..... 3-1	エンジン始動..... 5-1	こんなときは..... 6-18
メインスイッチ..... 3-1	発進..... 5-2	お車の手入れ 7-1
キーシャッター..... 3-3	加速と減速..... 5-3	洗車..... 7-1
警告灯と表示灯..... 3-3	ブレーキ..... 5-3	キャストホイールの取り扱い..... 7-2
マルチファンクション ディスプレイ..... 3-5	駐車..... 5-4	保管のしかた..... 7-3
ハンドルスイッチ..... 3-9	点検整備 6-1	アフターケア用品について..... 7-3
フロントブレーキレバー..... 3-11	点検整備の実施..... 6-1	製品仕様 8-1
リヤブレーキレバー..... 3-11	サービスツール..... 6-2	ユーザー情報 9-1
トラクションコントロール システム..... 3-11	カバーの取り外し、取り付け..... 6-2	二輪車を廃棄する場合は？..... 9-1
フューエルタンクキャップ..... 3-13	エンジンオイル..... 6-3	サービスマニュアル（別売）の 紹介..... 9-2
燃料..... 3-14	ファイナルギヤオイルの交換時期..... 6-4	車両情報..... 9-2
シートの開閉（シートロック オープナーの使いかた）..... 3-14	エンジンのかかり具合、異音の 点検..... 6-5	索引 10-1
タンデムフットレスト..... 3-15	低速、加速の状態の点検..... 6-5	
ヘルメットホルダー..... 3-16	冷却水..... 6-6	
書類入れ..... 3-16	エアクリナーエレメント、 Vベルトフィルターエレメント..... 6-7	
フロントポケット..... 3-17	タイヤ..... 6-9	
フロントフック..... 3-17		
トランク..... 3-17		

JAU27281

JAUT4441

この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。

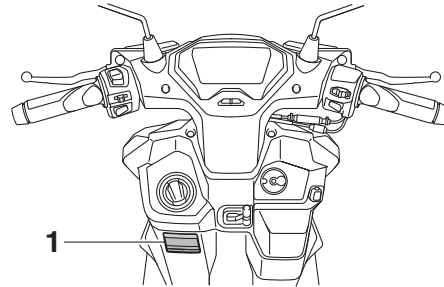
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。

車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

警告

- ・取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ・ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- ・マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ・ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- ・違法改造はやめましょう。
- ・定められた点検整備をメンテナンスノートに従って履行しましょう。

BLB-F118K-00

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっかり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
 - ・ プロテクターを備えた保護性の高い服

安全運転のために

1

で明るく目立つ色のもの

- 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン



- 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
 - ズボンのすそや袖口の広い服
 - 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾が

ある服

- ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服



- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

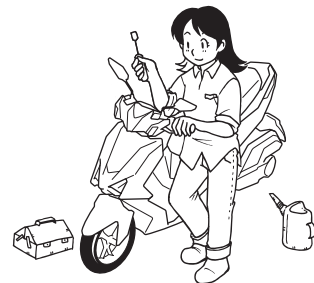
JWA11601

警告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令に準じた日常点検を行ってください。また、法令に準じた1年、2年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



車の異状

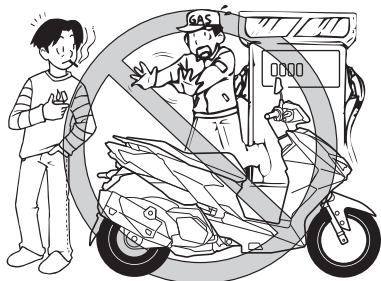
次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそ

れがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。

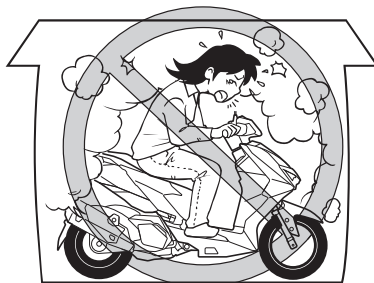


風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

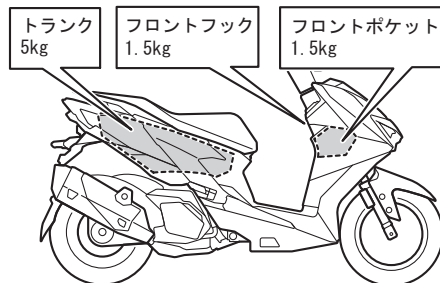
排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけ

ると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



荷物を積むときは



- 上記以外の場所には荷物を積まないでください。
- 荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物を積みすぎると、ハンドルが振られたりして危険ですの

で、積みすぎないように注意してください。

- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレストボード

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストボードにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。

安全運転のために

1



押して移動するときはエンジンを止める

車から降りて押して移動するときはエンジンを止めてください。

やむをえずエンジンをかけたまま移動するときはスロットルグリップを不用意に回さないようにするため、必ず右手でスタンディングハンドルを持って行ってください。スロットルグリップを持って行うと思わぬ事故の原因となります。



乗車定員は 2 名

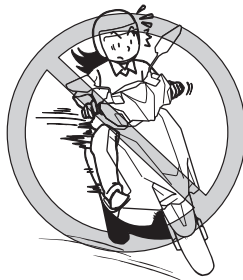
ただし、免許取得後 1 年未満の運転者は、法令により 2 人乗りはできません。

タンデムシート以外の場所には人を乗せないでください。



急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

JCA15221

注意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

自賠責保険に必ず加入

自賠責保険（共済）に加入することは法令で定められています。万一の事態に備えて必ず加入してください。

また、保険の期限切れにも注意してください。

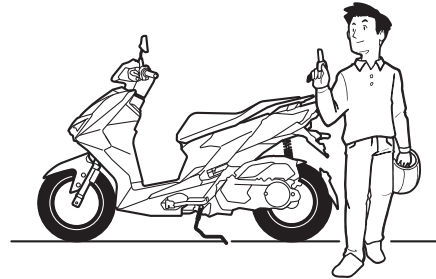
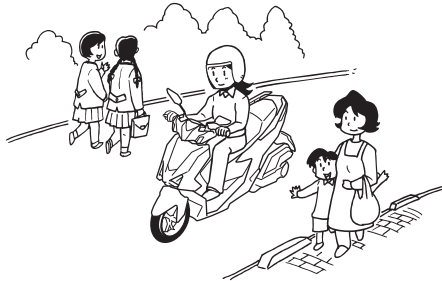
歩行者と他の車のために

JAUT3072

駐車

他の人への思いやり

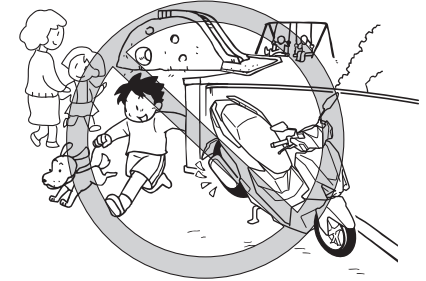
- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーシャッターを閉めて、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- サイドスタンドを使用して駐車するときは、車が停止してからハンドルを左に切ってください。

間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。

- 駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。
- マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。



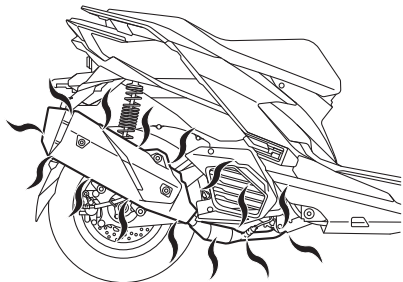
JWA12241

**警告**

- エンジン回転中および停止後、しばらくの

安全運転のために

1



昼間はヘッドライトを下向きに

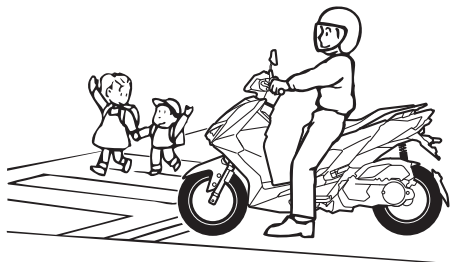
この車両は自動昼間点灯仕様です。エンジンがかかっている間は点灯しつづけます。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

環境・住民の方との調和のために

JAU27671

住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。

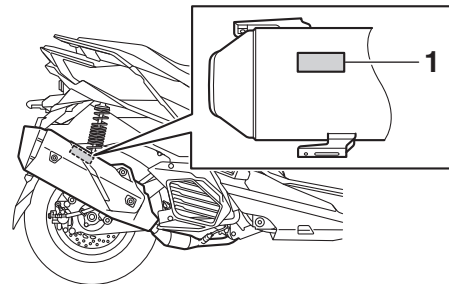


特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA”マークが刻印されています。



1. “YAMAHA” マーク

環境への配慮

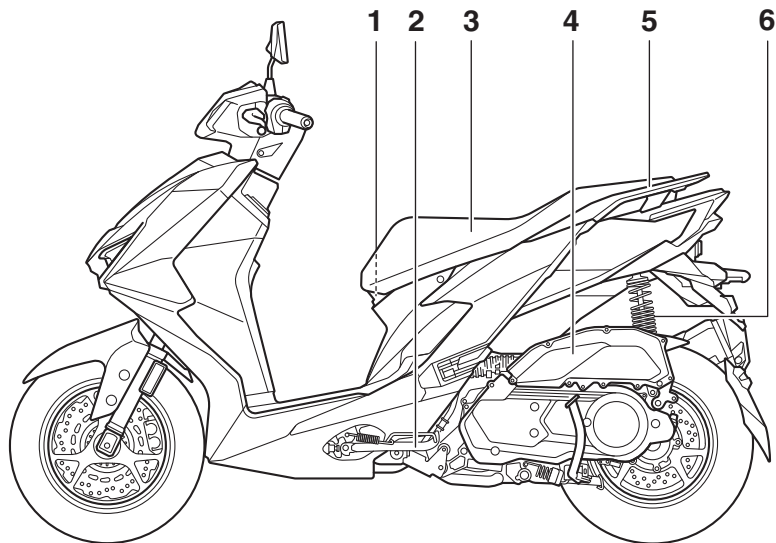
廃車をするときや、バッテリー、廃油などの
廃棄処理をするときは、環境保護のためお買
いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

各部の名称

JAU10411

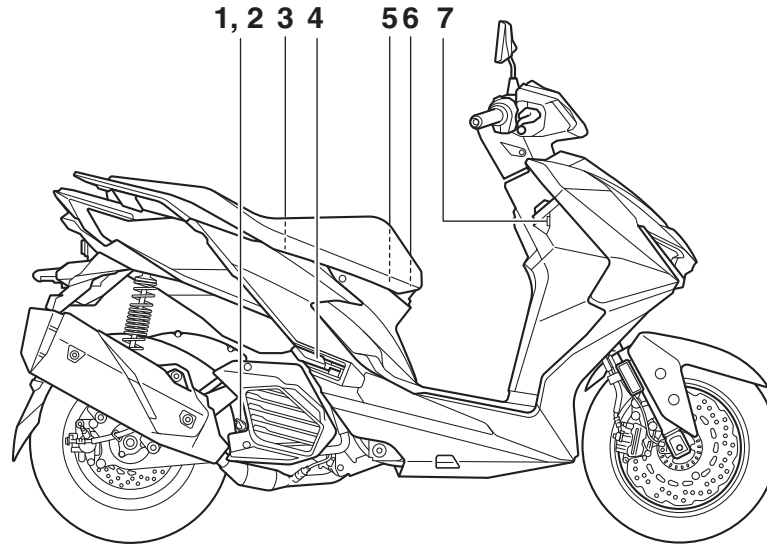
左側面

2



1. ヘルメットホルダー (P3-16)
2. サイドスタンド (P3-20)
3. シート (P3-14)
4. エアクリーナー (P6-7)
5. スタンディングハンドル (P3-19)
6. リヤクッション (P3-18)

右側面



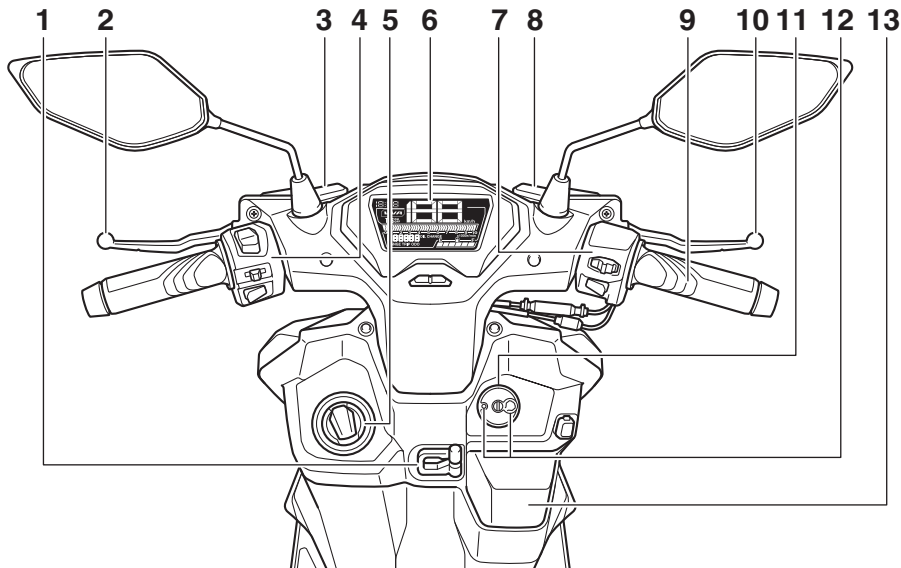
1. オイルレベルゲージ (P6-3)
2. オイル注入口 (P6-3)
3. トランク (P3-17)
4. タンデムフットレスト (P3-15)
5. バッテリー (P6-14)
6. ヒューズボックス (P 6-15)
7. USB Type-C ジャック (P3-19)

各部の名称

JAU10431

運転装置と計器類

2



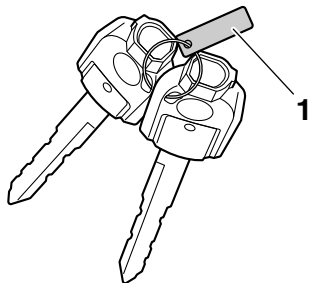
1. フロントフック (P3-17)
2. リヤブレーキレバー (P3-11)
3. リヤブレーキリザーバタンク (P6-12)
4. ハンドルスイッチ (左) (P3-9)
5. フューエルタンクキャップ (P3-13)
6. マルチファンクションディスプレイ (P3-5)
7. ハンドルスイッチ (右) (P3-9)
8. フロントブレーキリザーバタンク (P6-12)
9. スロットルグリップ (P5-3)

10. フロントブレーキレバー (P3-11)
11. メインスイッチ (P3-1)
12. キーシャッター (P3-3)
13. フロントポケット (P3-17)

キーの取り扱い

JAU50221

- キーは車の操作や保管をするときなどに使用する大切なものです。キーを紛失しないように、十分に注意してください。
- キーは2本付属しています。1本は予備として大切に保管してください。
- キーを紛失または破損したときのため、キーリングに掛かっているタグに打刻されたキー番号を9-3ページのキー番号記入欄に記入しておいてください。詳しくは販売店にご相談ください。



1. タグ

JCA12502

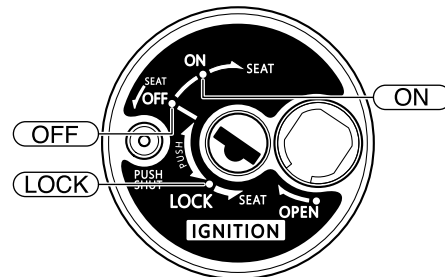
注意

金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホ

ルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをおすすめします。

メインスイッチ

JAUT2403



メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入/切」、ハンドルロック、シートのロック解除を行います。

JWA11621

警告

走行中にメインスイッチをOFFやLOCKの位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11972

注意

エンジンをかけないでメインスイッチをONのままにしたり、エンジン始動後アイドル状態を長時間続けると、バッテリーあがり

各部の取り扱いと操作

の原因となります。

要 点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

3

ON

JAU15510

- エンジンの始動ができます。
- キーは抜けません。
- テールランプ、メーター灯、番号灯とマーカーランプが点灯します。
- エンジンを始動させると、ヘッドライトが点灯します。

要 点

メインスイッチを ON にしたとき、2～3 秒間フューエルポンプ作動音がすることがあります。

OFF

JAU46011

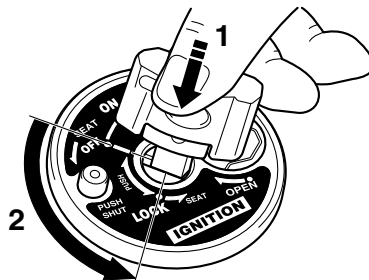
全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

LOCK

JAU1068B

ハンドルがロックされ、全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

ハンドルロックのしかた



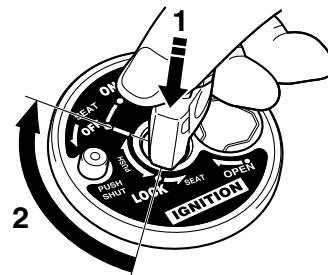
1. 押す
2. 回す

1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

要 点

ロックしにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回します。

ハンドルロックの解除のしかた



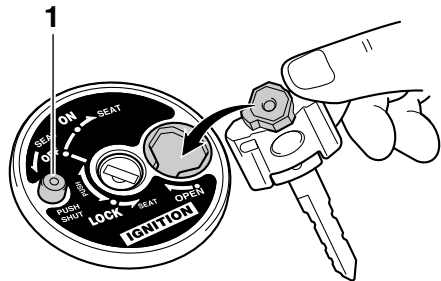
1. 押す
2. 回す

LOCK の位置でキーを押し込み、そのまま OFF まで回します。

キーシャッター

JAUT5520

メインスイッチのキー孔をガードします。キーシャッターの開閉は、キーとキーシャッターボタンを使って行います。



1. キーシャッターボタン

キーシャッターを閉じるとき

キーシャッターボタンを押すと、キーシャッターが閉まります。

キーシャッターを開けるとき

メインスイッチにあるくぼみにキーの突起部分を差し込み、右に回すとキーシャッターが開きます。

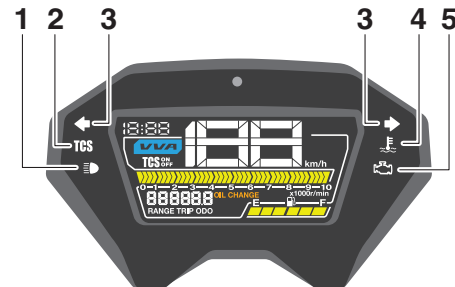
要 点

メインスイッチにあるくぼみには溝があります。突起部分をくぼみに差し込むときは、

溝に合わせて差し込んでください。

警告灯と表示灯

JAU1100F



1. ヘッドライト上向き表示灯 “”
2. トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”
3. 方向指示器表示灯 “” / “”
4. 水温警告灯 “”
5. エンジン警告灯 “”

方向指示器表示灯 “” / “”

JAU11033

方向指示器に合わせて点滅します。

ヘッドライト上向き表示灯 “”

JAU11081

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

水温警告灯 “”

JAUT2421

エンジン冷却水が規定温度以上になると点灯します。

各部の取り扱いと操作

3

要 点

- 警告灯の球切れや回路点検のため、メインスイッチを ON にするとしばらく (2 ~ 3 秒間) 点灯します。点灯しないときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
- 警告灯が消灯した直後に、メインスイッチを OFF → ON にしても点灯しないときがあります。これは故障ではありません。

JCAT1091

注 意

- 万一、走行中に水温警告灯が点灯したら、エンジンを止めてリカバリータンクの水量を点検してください。
- 長時間のアイドリングにより、水温警告灯が点灯することがあります。このときは、走行するか、エンジンを止めて冷やしてください。

JAU93300

エンジン警告灯“”

エンジン異常が発生したとき、警告灯が点灯または点滅します。警告灯が点灯または点滅したときは、ヤマハ販売店で車載故障診断装置の点検を受けてください。

要 点

車両の電源をオンにすると、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JCA26820

注 意

エンジン警告灯が点滅したときは、低速で走行してください。マフラーの中の触媒装置が損傷する可能性があります。

要 点

このエンジンは自己診断機能により繊細に監視され、排気ガス制御システムの劣化や故障を検知します。そのため、改造、整備不良や不適切な車両の使用により、エンジン警告灯が点灯する場合があります。故障以外の原因による警告灯の点灯を避けるために、以下のことを守ってください。

- エンジンコントロールユニットのソフトウェアを書き換えしないでください。
- エンジンコントロールユニットに影響を与えるような電装アクセサリーを使用しないでください。
- 標準仕様以外のスパークプラグ、フューエルインジェクターを使用したり、サスペン

ション、排気系などの社外アクセサリを使用したりしないでください。

- ドライブベルト、プーリー (装備されている場合)、ホイール、タイヤなどの仕様を変更しないでください。
- O2 センサー、エアインダクションシステム、触媒や EXUP などの排気系部品を外したり、改造したりしないでください。
- Vベルトやドライブベルトを正しくメンテナンスしてください。(装備されている場合)
- タイヤの空気圧を正しくメンテナンスしてください。
- スロットルグリップの開閉を過度に繰り返す、バーンアウトやウィーリーなどの行為はしないでください。

JAU89931

トラクションコントロールシステム表示灯“”

トラクションコントロールシステムが作動すると点滅し、オフになると点灯します。(3-11 ページを参照)

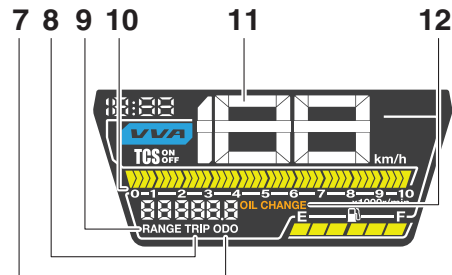
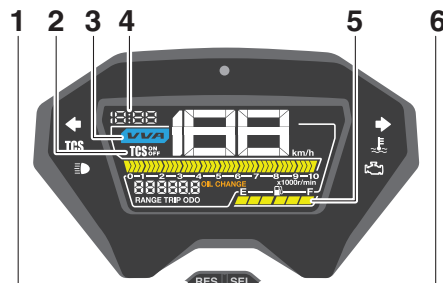
要 点

車両の電源をオンにしたとき、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。車両の電源を

オンにしたときに表示灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

マルチファンクションディスプレイ

JAUT5870



1. “RES” ボタン
2. トラクションコントロールシステムアイコン “TCS”
3. VVA（可変バルブ機構）アイコン
4. 時計
5. 燃料計
6. “SEL” ボタン
7. オドメーター表示 “ODO”
8. トリップメーター表示 “TRIP”
9. 航続可能距離メーター “RANGE”
10. タコメーター
11. スピードメーター
12. エンジンオイル交換アイコン “OIL CHANGE”

JWA12161

警告

表示の切り替え、時刻調整などの操作は、必ず停車中に行ってください。

マルチファンクションディスプレイには以下の機能があります。

各部の取り扱いと操作

3

- タコメーター
- スピードメーター
- オドメーター “ODO”
- トリップメーター “TRIP”
- オイル交換トリップメーター
- エンジンオイル交換アイコン
- 航続可能距離メーター “RANGE”
- VVA (可変バルブ機構) アイコン
- トラクションコントロールシステムアイコン “TCS”
- 時計
- 燃料計

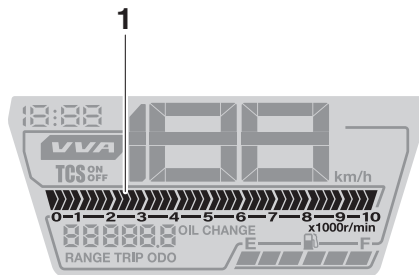
要 点

- メインスイッチを ON にすると、全てのセグメントを表示し、その後通常表示になります。このときマルチファンクションディスプレイは回路の点検を行っています。
- “SEL” ボタンや “RES” ボタンを使用するときは、メインスイッチを ON にしてください。

“SEL” ボタンを押すごとに、下記の順で表示が切り替わります。

“ODO” → “TCS” → “RANGE” → “TRIP” → “OIL CHANGE” → “ODO”

タコメーター



1. タコメーター

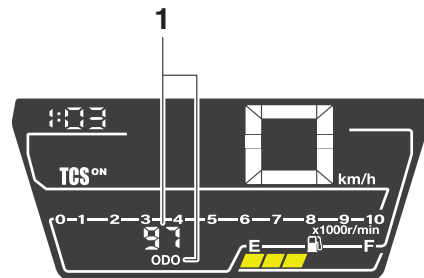
毎分のエンジン回転数を示します。

スピードメーター

車の速度を示します。

オドメーター

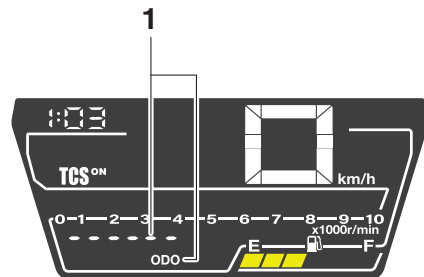
走行した総距離を表示します。



1. オドメーター

要 点

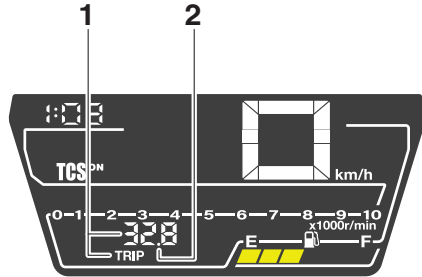
- オドメーターは最大値 (999999 km) を超えると最大値で固定されます。
- オドメーターが “-----” を表示した場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。



1. オドメーター

トリップメーター

“TRIP” を表示すると同時に走行距離表示部に小数点を表示し、前回リセットしてからの走行距離を積算して表示します。



1. トリップメーター表示 “TRIP”
2. 小数点

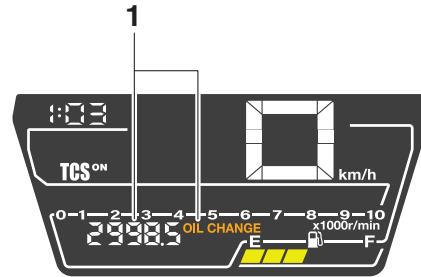
トリップメーターをリセットするには、“SEL” ボタンで“TRIP”を表示させ、“RES” ボタンを 1 秒以上押します。

要 点

- トリップメーターは最大値 (9999.9 km) を超えるとリセットされます。
- トリップメーターが“----”を表示した場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

オイル交換トリップメーター

“OIL CHANGE” が点灯し、前回オイル交換トリップメーターをリセットしてからの走行距離を積算して表示します。



1. オイル交換トリップメーター表示

オイル交換トリップメーターをリセットするには、“SEL” ボタンでオイル交換トリップメーターを表示させ、“RES” ボタンを 3 秒以上押します。このとき、エンジンオイル交換表示 “OIL CHANGE” が点滅していれば、同時にリセットされて点灯が変わります。

要 点

- リセット後 “SEL” ボタンを押すと、オイル交換トリップメーターからオドメーターに切り替わります。
- オイル交換トリップメーターが“----”を表示した場合は、ヤマハ販売店で点検を受け

てください。

エンジンオイル交換アイコン “OIL CHANGE”

エンジンオイルの交換時期を知らせます。初回は走行距離が 1000km になると、以降はリセット後 3000km 走行すると表示が点滅します。エンジンオイル交換表示 “OIL CHANGE” が点滅したら、早めにヤマハ販売店でエンジンオイルを交換してください。エンジンオイル交換後は、必ずリセットしてください。リセットのしかたは、オイル交換トリップメーターの項目を参照してください。

エンジンオイル交換表示 “OIL CHANGE” が点滅する前にオイル交換したときも、リセットしてください。リセットせずにそのまま走行すると、交換時期がずれてしまいます。

要 点

エンジンオイル交換表示を初回 1000km のオイル交換前にリセットした場合、以降のエンジンオイル交換の間隔は 3000km ごとになります。

各部の取り扱いと操作

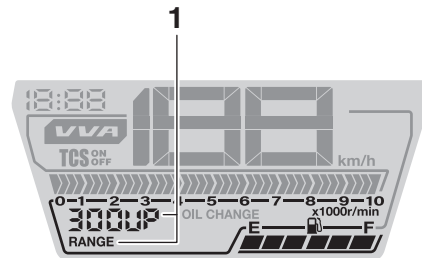
VVA（可変バルブ機構）アイコン

この車には、低速域から高速域まで優れた燃費と加速を実現する可変バルブ機構（VVA）が装備されています。VVA 表示は可変バルブ機構が高速域に切り替わると点灯します。

給してください。

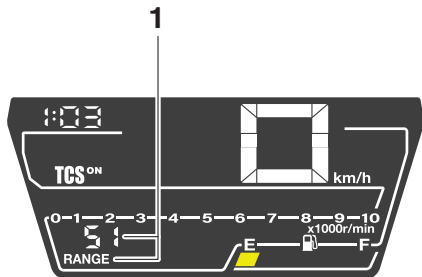
- 航続可能距離が再計算されると、“RANGE” の表示が 3 回点滅します。点滅終了後、航続可能距離が更新されます。

航続可能距離“RANGE”が 3km 未満の場合
航続可能距離は“-”と表示されます。



1. 航続可能距離メーター“RANGE”

航続可能距離“RANGE”

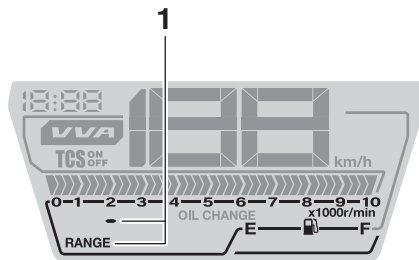


1. 航続可能距離メーター“RANGE”

現在の走行状況と燃料残量を考慮し、走行可能距離の予測値を表示します。

要 点

- 航続可能距離“RANGE”の走行可能距離は、平均燃費をもとに予測します。実際の走行距離は、使用状況や燃費の変動により異なる場合があります。
- 航続可能距離は参考値です。燃料計の最後のセグメントが点滅した場合は早めに補



1. 航続可能距離メーター“RANGE”

航続可能距離“RANGE”が 300km を超える
場合

航続可能距離は“300UP”と表示されます。

トラクションコントロールシステムアイコン“TCS”

トラクションコントロールシステムの状態を表示します。(3-11 ページを参照)

- “TCS On”: システムがオンの状態です。
- “TCS OFF”: システムがオフの状態です。

要 点

“TCS”のみ表示される場合は、システムに異常があります。ヤマハ販売店に点検・整備を依頼してください。

時計

この時計は 12 時間表示です。

時刻調整のしかた

1. メインスイッチを ON にします。

2. オドメーター表示中に“RES” ボタンを3秒以上押します。
3. <時>の表示が点滅したら、“SEL” ボタンを押して<時>を合わせます。
4. “RES” ボタンを押すと、<分>の10の位の表示が点滅します。
5. “SEL” ボタンを押して<分>の10の位を合わせます。
6. “RES” ボタンを押すと、<分>の1の位の表示が点滅します。
7. “SEL” ボタンを押して<分>の1の位を合わせます。
8. “RES” ボタンを押すと時刻調整が完了し、時計表示に戻ります。

の残量は約 1.2 L です。早めに補給してください。

要 点

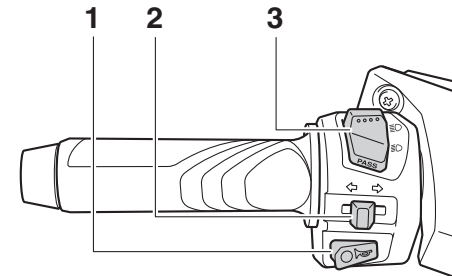
時刻調整中、30 秒以上“SEL” ボタンまたは“RES” ボタンを操作しないと、調整前の時刻のまま時計表示に戻ります。



燃料計

メインスイッチを ON にすると、フューエルタンクのガソリンの残量を表示します。ガソリンの残量が減ると、燃料計のセグメントの数が減ります。ガソリンの残量が少なくなると最後のセグメントが点滅して知らせます。最後のセグメントが点滅状態になったとき

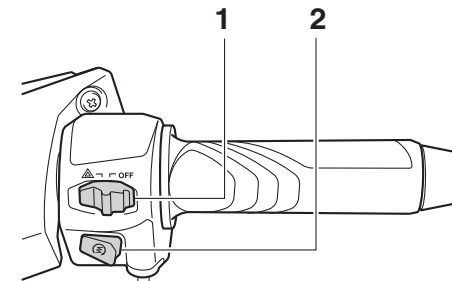
ハンドルスイッチ



<左>



1. ホーンスイッチ “”
2. 方向指示器スイッチ “”
3. ヘッドライト/パッシングライトスイッチ “/PASS”

<右>



1. ハザードスイッチ “”
2. スタータースイッチ “”


各部の取り扱いと操作


3

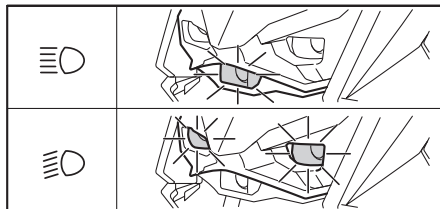
JAU54203

ヘッドライト／パッシングライトスイッチ “//PASS”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えたり、パッシング（スイッチを押している間、ヘッドライトの上向きも点灯）させるスイッチです。

（上向き）：遠くを照らします。

（下向き）：近くを照らします。



ヘッドライトの配光が下向きのときに“PASS”側を押すと、ヘッドライトの上向きも点灯します。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

要 点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。


JAU80240


方向指示器スイッチ “/”

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

：右側の方向指示灯が点滅します。

：左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11641

警 告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JAU12501

ホーンスイッチ “”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要 点

必要なときにのみ使用してください。

JAUT5540

スタータースイッチ “”

サイドスタンドを上げた状態で、リヤブレーキレバーを握りながらこのスイッチを押すと、スターターが回転しエンジンが始動します。


JCA11882

注 意

- スターターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。
- エンジンを始動させる前に、5-1 ページの始動手順を参照してください。

JAU79500

ハザードスイッチ “”

車両の電源をオンにした状態で、スイッチを“”にスライドし、ハザードランプを点滅させます（全ての方向指示器が点滅します）。ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

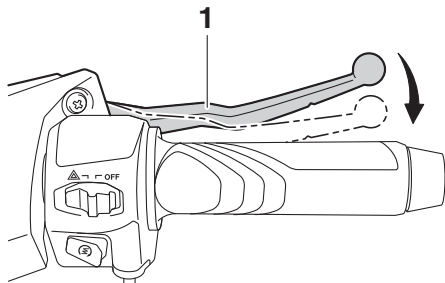
JCA11891

注 意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

フロントブレーキレバー

JAU12902

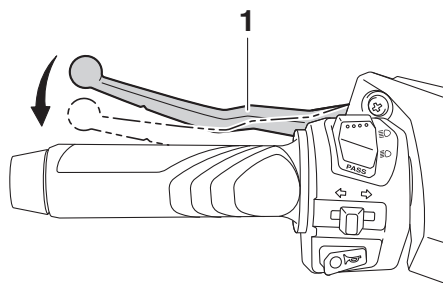


1. フロントブレーキレバー

フロントブレーキレバーは、ハンドルの右側に取り付けられています。フロントブレーキをかけるには、このレバーをスロットルグリップに向けて握ります。

リヤブレーキレバー

JAU12952



1. リヤブレーキレバー

リヤブレーキレバーは、ハンドルの左側に取り付けられています。リヤブレーキをかけるには、このレバーをハンドルのグリップに向けて握ります。

トラクションコントロールシステム

JAUT5920

トラクションコントロールシステムは、未舗装または濡れた道路のような滑りやすい路面で加速するとき、加速時の駆動力を効率良く路面に伝達する働きをします。センサーが後輪のスリップを検知すると、トラクションコントロールシステムにより、スリップ状態が回復するまでエンジン出力を制御します。トラクションコントロールが有効になると、“TCS”表示灯が点滅します。

JWA15433

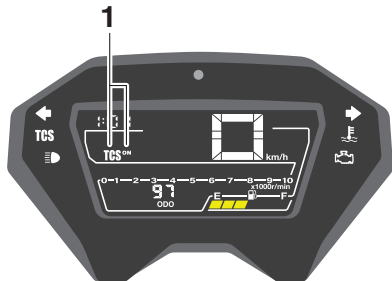
警告

トラクションコントロールシステムは、道路の状況に合わせた適切な走行をするための機能ではありません。またトラクションコントロールシステムは、スピードが出過ぎたまま曲がり角に進入するときや、車体を大きく傾斜させた状態での急な加速、ブレーキ中に起こるトラクションの低下やフロントホイールのスリップを防ぐことができません。他の車と同じように、滑りやすい路面に進入するときは注意して走行し、特に滑りやすい路面の走行はやめてください。

各部の取り扱いと操作

トラクションコントロールシステムの設定

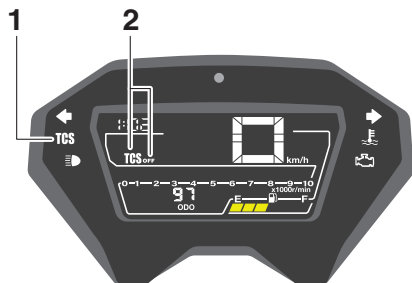
3



1. トラクションコントロールシステムアイコン

車両の電源を ON にすると、トラクションコントロールシステムは自動的に ON になります。OFF にする場合は、次の手順を行ってください。

1. “SEL” ボタンを押し、トラクションコントロールシステムアイコンを点滅させます。
2. “TCS OFF” が表示され、TCS 表示灯が点灯するまで“RES”ボタンを押し続けます。
3. “SEL” ボタンを押しして設定を確認します。



1. トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”
2. トラクションコントロールシステムアイコン

要 点


車両が泥や砂などの軟らかい地面にはまったりしたとき、トラクションコントロールシステムを OFF にすると、抜け出しやすくなる場合があります。

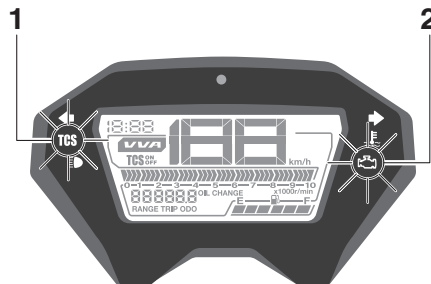
JCA16801


注 意

必ず指定タイヤを使用してください。(6-9 ページ参照) 指定サイズ以外のタイヤを使用すると、トラクションコントロールシステムはタイヤの回転を正確に制御することができません。

トラクションコントロールシステムのリセット

トラクションコントロールシステムは、センサーの故障が検知されたとき、片方の車輪のみが回転したときなどに、自動的に OFF になります。この場合、“TCS” 表示灯が点灯するほか、“” 警告灯も点灯することがあります。



1. トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”
2. エンジン警告灯 “”

要 点



メインスタンドがかかっている場合は、過剰にエンジンを回転させないでください。トラクションコントロールシステムが自動的に OFF になり、リセット操作が必要になります。

トラクションコントロールシステムが自動的にOFFになった場合は、次のようにリセット操作をしてください。

1. 車両を停車させ、電源を OFF にします。
2. 数秒後、車両の電源を ON にします。
3. “TCS” 表示灯が消灯し、システムが ON になります。

要 点

リセット操作後も“TCS”表示灯が点灯したままの場合は、乗車は可能ですが、速やかにヤマハ販売店で車両の点検を受けてください。

4. “” 警告灯が点灯している場合は、ヤマハ販売店で車両の点検を受け、“” 警告灯を消灯してください。

フューエルタンクキャップ

JAU13078

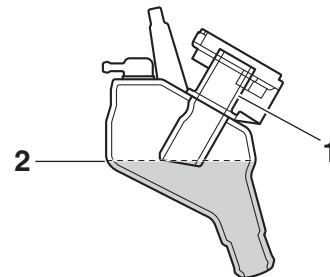
JWA12172



給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

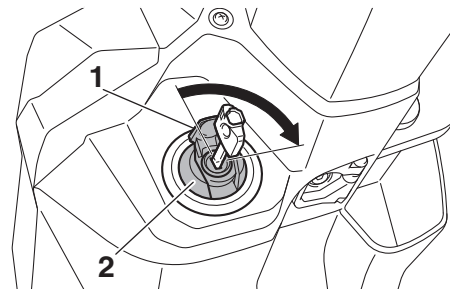
- 給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。
- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があります、ヤケドするおそれがあります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。
- 給油限度（フィルターチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に

に閉めてください。



1. フィルターチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの開けかた



1. ロックカバー
2. フューエルタンクキャップ

1. ロックカバーを開けます。
2. キーを差し込み、時計方向に 1/4 回して

各部の取り扱いと操作

ロックを解除します。

3. フューエルタンクキャップを開けます。

フューエルタンクキャップの閉めかた

1. キーを差し込んだ状態でフューエルタンクキャップを押して閉めます。
2. キーを反時計方向に回してロックし、抜き取ります。
3. ロックカバーを閉めます。

要 点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを閉めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないで、キーを抜き取るとはできません。

燃料

JAU31461

指定燃料

JAU28314

指定燃料：
無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：
6.1 L

JCA12512

注意

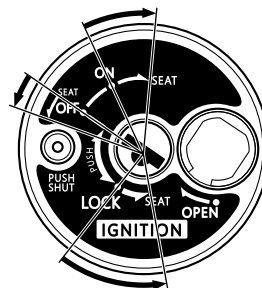
- 必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。
- こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。
- タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

JAU75550

シートの開閉（シートロックオープン）の使いかた

シートの開けかた

1. メインスタンドを立てます。
2. メインスイッチを OFF、LOCK または ON から SEAT にします。



要 点

キーは押しこまないで回してください。

3. シートを持ち上げて開きます。

シートの閉めかた

シートを降ろし、シート後部を押さえてロックします。

要 点

- シートを降ろしたら確実にロックされて

いるか確認してください。

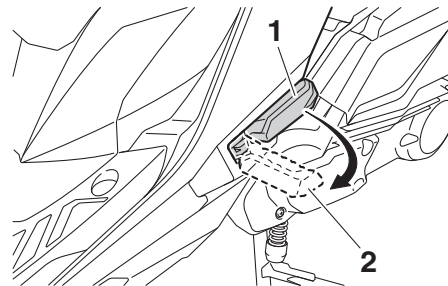
- キーをシートの下に置いたまま閉じると、ロックされてキーが取り出せなくなります。

JAUT3892

タンデムフットレスト

タンデムフットレストには格納位置と乗車位置があります。

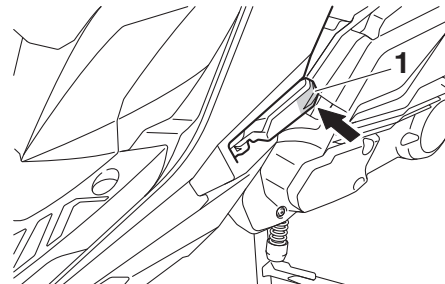
タンデムフットレストを使用しないときは、格納位置にしておきます。



1. 格納位置
2. 乗車位置

タンデムフットレストの出しかた

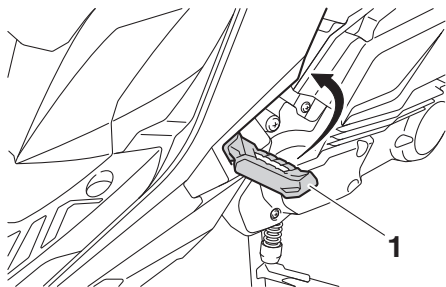
1. タンデムフットレストの先端部を手で矢印の方向へ押します。



1. 先端部
2. 「カチッ」と音がしてロックが解除されたら手を放します。
タンデムフットレストが自動的に乗車位置まで出てきます。

タンデムフットレストの格納のしかた

1. タンデムフットレストの先端部を手で押し、格納位置まで押し込みます。



1. 先端部
2. 「カチッ」と音がしたら手を放します。タンデムフットレストが格納位置でロックされます。

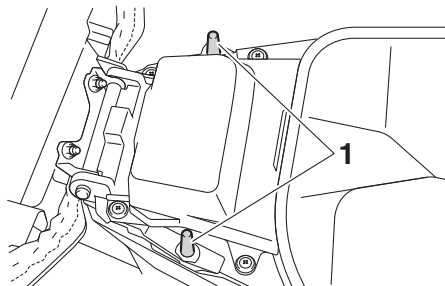
JWAT1460

警告

タンデムフットレストを使用しないときは、事故を防ぐために格納位置に戻してください。

ヘルメットホルダー

JAU14302



1. ヘルメットホルダー
- シートを開けるとヘルメットホルダーがあります。ヘルメットのおごひもの金具部分を掛け、シートをロックします。

JWA11651

警告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

JAU28521

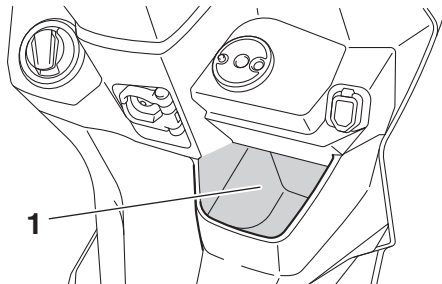
書類入れ

メンテナンスノート、自賠責保険証はビニール袋に入れて、トランク内に保管してください。

フロントポケット

JAU37131

小物や、500mlのペットボトルなどが収納できます。



1. フロントポケット

JWA14171

警告

- フロントポケットに積める荷物は 1.5 kg までです。
- ハンドル操作を妨げるような積みかたや、走行中に荷物が落下するおそれのあるような積みかたはしないでください。

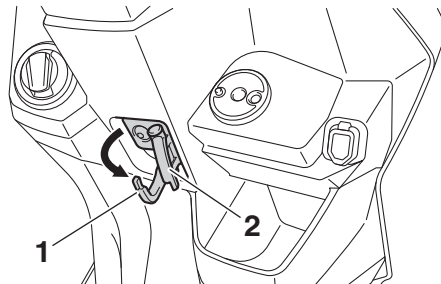
要点

ペットボトルの形状によっては収納できないものもあります。

フロントフック

JAUT3822

フロントフックを引き出し、レバーを右側に押しながら手さげ袋などを掛けます。



1. フロントフック
2. レバー

要点

- レバーから手を放すと、レバーは元の位置に戻ります。
- フロントフックは、自動的に元の位置には戻りません。

JWA11682

警告

フロントフックに掛けられる荷物は、1.5 kg までです。

トランク

JAUT5930

シートの下にトランクがあります。(3-14 ページ参照)

JWA12192

警告

トランク内に積める荷物は、5 kg までです。

JCA12423

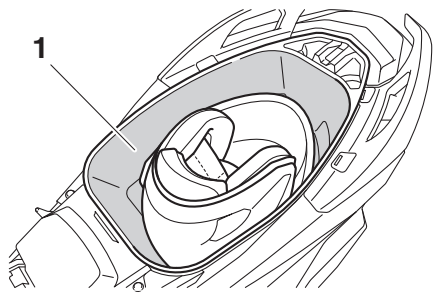
注意

- 洗車をするときに水が入ることがあります。大切な物は、ビニール袋などに入れて収納してください。
- 濡れた物は、ビニール袋に入れてから収納してください。濡れたまま収納すると、トランク内にカビなどが発生することがあります。
- 貴重品やこわれやすい物は入れないでください。
- トランク内は直射日光、エンジンの熱などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすい用品、食料品または可燃性のものは入れないでください。

ヘルメットは、図のようにヘルメットの前部を後向きにして収納します。

各部の取り扱いと操作

3



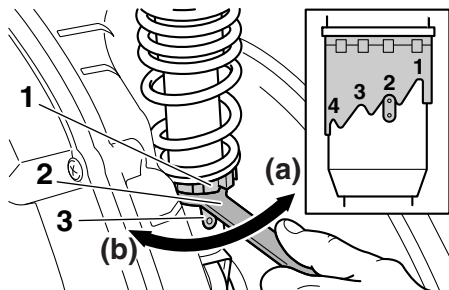
1. トランク

要 点

- ヘルメットのサイズや形状によっては、収納できないものもあります。
- シートを開けたまま、車から離れないでください。

リヤクッションの調整

JAUT5560



1. アジャスター
2. 調整レンチ
3. インジケーター

警告

アジャスターは左右同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

リヤクッションにはスプリングプリロードアジャスターが装備されています。

JWA11501

注意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

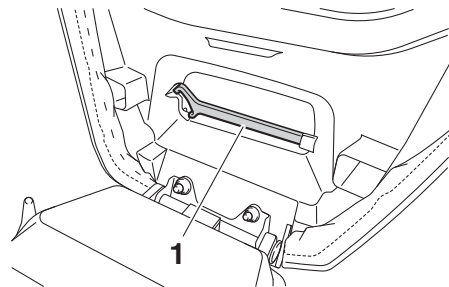
スプリングプリロードの調整は以下のよう

に行います。

スプリングプリロードを大きくし、サスペンションを硬くするには、アジャスターを (a) 方向に回します。スプリングプリロードを小さくし、サスペンションを軟らかくするには、アジャスターを (b) 方向に回します。

要 点

- アジャスターの切り欠きを、リヤクッションのインジケーターに合わせて。
- シートの裏側の調整レンチを使って調整を行います。



1. 調整レンチ

JCA11911

スプリングプリロード：

最小（ソフト）：

1

標準：

2

最大（ハード）：

4

スタンディングハンドル

JAU29911

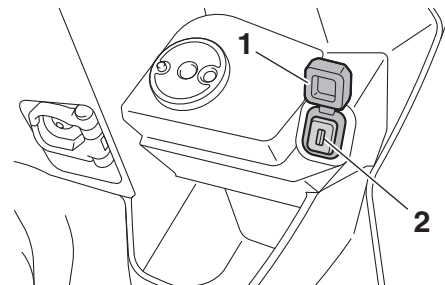
メインスタンドを立てたり戻したりするときに、右手で持ちます。



1. スタンディングハンドル

USB Type-C ジャック

JAUT5880



1. USB ジャックキャップ
2. USB Type-C ジャック

この車両には、5 V の USB Type-C ジャックが搭載されています。USB Type-C ジャックは、車両の電源がオンのときに使用できません。

USB ジャック最大容量：

3.0 A (18.0 W)

要 点

- エンジンを停止した状態で USB Type-C ジャックを使用しないでください。バッテリーが消耗します。
- 条件によっては、USB が接続されていて

各部の取り扱いと操作

3

も、デバイスのバッテリー残量が低下することがあります。

- このUSB Type-Cジャックは、負荷に応じて出力を自動的に制限する仕様になっています。過負荷状態になると、一時的に電力供給を停止します。
- 過熱保護機能を搭載しており、本体温度が過度に上昇した場合は、一時的に電力供給を停止します。温度が正常に戻ると、通常の電力供給を再開します。

JCA28531

注意

- USB Type-C ジャックを水や衝突から保護するために、USB Type-C ジャックを使用しない場合は、キャップを取り付けてください。
- 破損を防ぐため、USB ジャックのキャップを開閉する際は、無理な力を加えないようにしてください。
- USB ジャックキャップが正しく取り付けられていることを確認し、雨天時や洗車時には USB Type-C ジャックを使用しないでください。USB Type-C ジャックが濡れた場合は、車両の電源を切った状態で乾かしてから使用してください。
- USB Type-C ジャックに接続されたケー

ブルを引っ張ったり、力を加えたりしないでください。

JAUT5310

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

JWAT1450

警告

走行中にサイドスタンドを操作するとエンジンが停止し、思わぬ事故の原因となります。走行中はサイドスタンドを操作しないでください。

要点

サイドスタンドがスムーズに作動しないときは、取付部に注油してください。

JAU1595B

JAU30173

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

⚠ 警告

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービストールの有無や内容が異なります。)

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、6-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	<ul style="list-style-type: none"> ● ブレーキレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	<ul style="list-style-type: none"> ● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。(※)
エンジン	<ul style="list-style-type: none"> ● 冷却水の量が適当であること。(※) ● エンジンオイルの量が適当であること。(※) ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。(※) ● 低速、加速の状態が適当であること。(※)
灯火装置および方向指示灯	<ul style="list-style-type: none"> ● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	<ul style="list-style-type: none"> ● 当該箇所に異常がないこと。

(注)

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期(長距離走行時や洗車、給油後など)に実施をしてください。

JWA11733

⚠ 警告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。
- 走行して点検するときは、交通状況に注意してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

ならし運転

JAU31471

ならし運転のしかた

車を長持ちさせるために、ならし運転を行ってください。

乗りはじめてから約 1 か月間（または 1000km 走行まで）は、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。

JAU27744

エンジン始動

JAUT3990

エンジンをかける前に

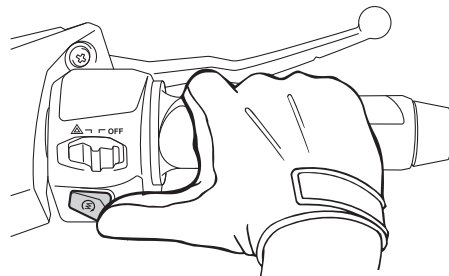
- エンジンを始動するときは、風通しのよい屋外で行います。
- ガソリン、オイル量が充分あることを確認します。
- メインスタンドを立て、必ず車の左側から操作します。

要 点

サイドスタンドをおろした状態では、エンジンは始動できません。また、エンジン始動後、サイドスタンドを出すとエンジンは停止します。

エンジンのかけかた

1. メインスイッチを ON にします。
2. リヤブレーキレバーをしっかりと握ります。
3. スロットルグリップを回さずに、スタータースイッチを押します。エンジンが始動したら、スタータースイッチから指をはなしてください。



要 点

- スタータースイッチで5秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10秒ぐらい休ませてから押しなおしてください。
- 長時間ご使用にならなかった場合や、ガス欠をしてガソリンを補給した後などにエンジンが始動しにくいことがあります。このようなときは、スロットルグリップを回さずにスタータースイッチをいつもより長めに押してください。

JCA16661

注 意

- エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。
- 長時間のアイドリングはガソリンのムダ

使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。

- 通常のアイドル回転数を必要以上に高くした状態（スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。

発進

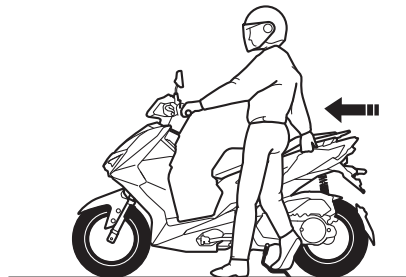
JAU45093

JWA12261



警告
飛び出し防止のため、走り出すまではエンジンの回転をむやみに上げないでください。

1. 左手でリヤブレーキレバーを握り、右手でスタンディングハンドルを持ちながら、車を前に押し出してメインスタンドを戻します。



JWA12271



警告
メインスタンドを立てたり戻したりするときは、スロットルグリップを握らないでください。スロットルグリップが回り、車が走り出すことがあります。

2. シートにまたがり、バックミラーを調整

します。

3. 方向指示器スイッチを右側に入れ、発進の合図をします。
4. 周りの安全を確認し、スロットルグリップをゆっくりと回して発進します。

JWA12281



警告
スロットルグリップを急激に手前に回すと、急発進して危険です。

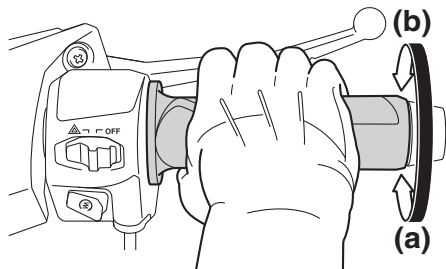
5. 方向指示器を消灯します。

運転操作

5

加速と減速

速度の調節は、スロットルを開けたり、閉じたりして行います。速度を上げるには、スロットルグリップを (a) 方向に回します。速度を落とすには、スロットルグリップを (b) 方向に回します。



JAU16783

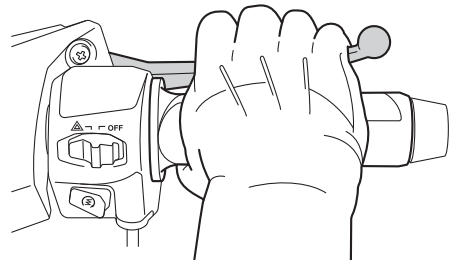
JCA12682

注意

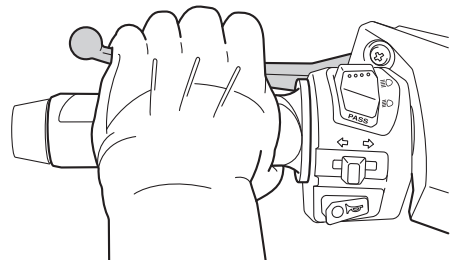
- 上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となったり、エンジン警告灯が点灯する恐れがあります。
- 不要な空ぶかしをしないでください。エンジン警告灯が点灯する恐れがあります。

ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
 2. フロントブレーキとリアブレーキを同時に、徐々にしぼりこむように握ります。
- <フロントブレーキ>



<リアブレーキ>



JAU16794

JWA11573

警告

- 急なブレーキ操作は避けてください (特に

どちらか一方に傾いているとき)。横すべりや転倒の原因となります。

- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。
- 連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

JAU17214

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11582

警告

- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

点検整備の実施

JAU29839

日常点検

4-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1年点検と2年点検の2種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12055



警告

- 点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。

- 安全のため、ご自身の知識、技量にあわせて範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。
- 点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。
 - 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
 - エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
 - 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。
 - 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
 - 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

JWA15461



警告

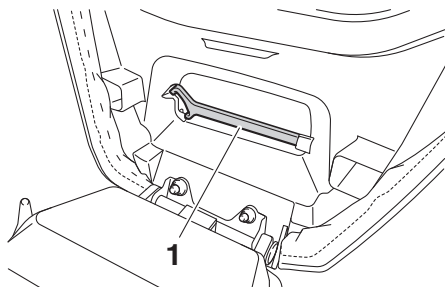
走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が十分に冷えてから行ってください。

要 点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービストールの有無や内容が異なります。)
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

サービスツール

JAU84630



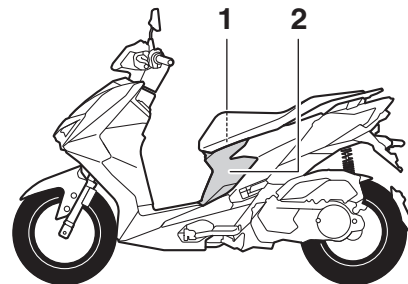
1. 調整レンチ

サービスツールはタンデムシートの裏側にあります。(3-14 ページ参照)

カバーの取り外し、取り付け

JAU18752

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。

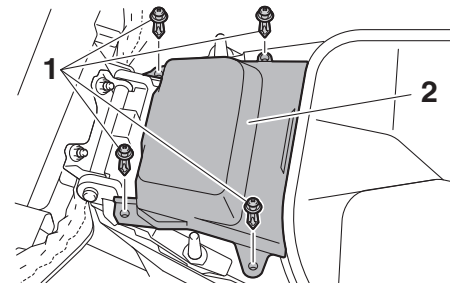


1. カバー A
2. カバー B

カバー A

カバーの取り外しかた

1. シートを開けます。(3-14 ページ参照)
2. スクリューを外し、カバーを取り外します。



1. スクリュー
2. カバー A

カバーの取り付けかた

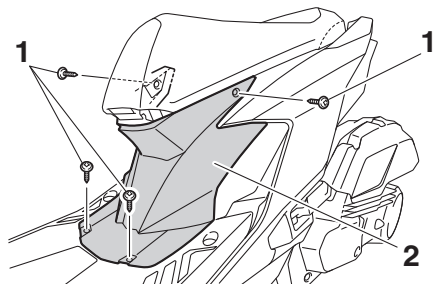
1. カバーを取り付け、スクリューを締め付けます。
2. シートを閉めます。

カバー B

カバーの取り外しかた

スクリューを外し、カバーを取り外します。

JAUT3831



1. スクリュー
2. カバー-B

カバーの取り付けかた

カバーを取り付け、スクリューを締め付けます。

エンジンオイル

JAU30306

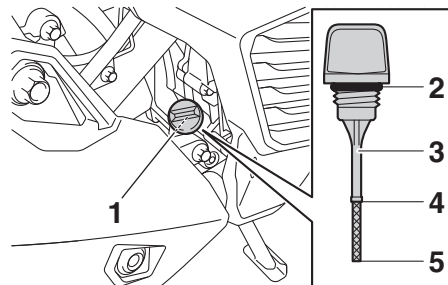
エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを2～3分間アイドリング運転します。

要 点

走行直後でエンジンが十分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めてメインスタンドを立てます。(車を垂直にする) 2～3分後、オイルが安定してからオイルレベルゲージを外します。レベルゲージ部をきれいにふいてオイル注入口に(ねじ込まないで)差し込み、もう一度取り出してオイル量を点検します。



1. オイル注入口
2. Oリング
3. オイルレベルゲージ
4. フルレベル
5. ロアレベル

要 点

オイル量がフルレベルとロアレベルの間であれば適切です。

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。(推奨エンジンオイルについては、7-3 ページ参照)
4. Oリングに損傷がないか点検し、損傷がある場合は交換してください。
5. オイルレベルゲージをオイル注入口に差し込み、確実に締めます。

JAU30615

JWA11861

JAUT5890

エンジンオイルの交換時期

エンジンオイルはエンジンを潤滑するだけでなく、エンジン内の清浄などを行っています。したがって、走行することで汚れて黒くなったり劣化していきます。

また、走行していないときも時間の経過によって劣化していきます。

汚れたオイルや劣化したオイルはエンジンの故障の原因となりますので、早めのオイル交換をおすすめします。

初回：

1 か月点検時または 1000 km 時

2 回目以降：

3000 km 走行ごと、または 1 年ごと

エンジンオイル量：

0.90 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの色が以下になっているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。

- 汚れて黒くなっている
- 水分が混ざって白っぽく（乳白色）になっている

ご不明な点は、ヤマハ販売店にご相談ください。

警告

- 走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
- 油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12261

注意

- 化学添加剤は一切加えないでください。
- 補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。
- オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。

要点

以下のような使用をした場合、オイルの劣化が早くなります。

- 短距離走行を繰り返す。
- アイドリングや低速走行の時間が長い。

ファイナルギヤオイルの交換時期

初回：

1 か月点検時または 1000 km 走行時

2 回目以降：

10000km 毎または 4 年毎

定期交換時オイル量：

0.10 L

推奨オイル：

ヤマハ マループ ギヤオイル

ファイナルギヤオイルの交換は、ヤマハ販売店で行ってください。

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。

エンジンから異音がないかを点検します。

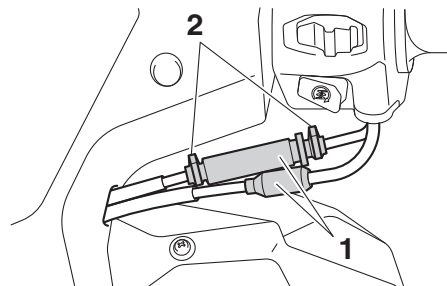
JAU30691

JAUT3942

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離れたときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。
- スロットルケーブルに劣化や損傷などがないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられているものがあります。ゴムカバーと固定のクランプが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。



1. ゴムカバー
2. クランプ

JWA15531

警告

ケーブル、ワイヤー類に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。

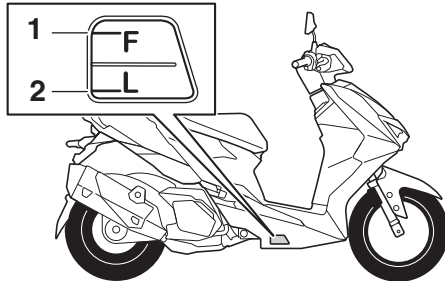
スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

冷却水

JAU20071

冷却水量の点検

JAUT2452



1. フルレベル
2. ロアレベル

要 点

- 冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で行ってください。
- 冷却水量の点検は、平坦な場所で車を垂直にして行ってください。

フットボード右下の点検窓から、リカバリータンク内の冷却水量がフルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

冷却水のつくりかた

JAU30805

ヤマルーブロングライフクーラントと水道水を 1 対 1 で混ぜ合わせます。

JWA11882

警告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- 目に入ったとき
水で十分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- 皮膚や衣類についたとき
すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- 飲んだとき
すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

JCA12112

注 意

混ぜ合わせに使用する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

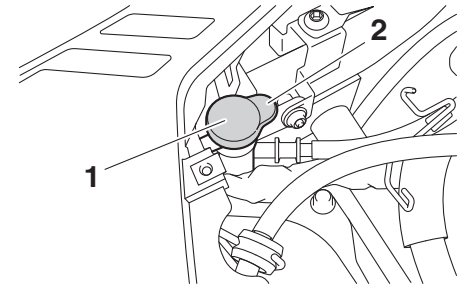
JAUT5570

冷却水の補充

リカバリータンク内の冷却水量を点検し、液面がロアレベルより下にあるときは、冷却水

をフルレベルまで補充します。

1. カバー B を取り外します。(6-2 ページ参照)
2. リカバリータンクキャップを外し、冷却水をフルレベルまで補充します。
3. リカバリータンクキャップ、カバー B を取り付けます。



1. リカバリータンクキャップ
2. ツメ

要 点

リカバリータンクキャップを取り付けるとき、キャップのツメは車両の後ろに向けてください。

JCA12121

注 意

- フルレベル以上は入れないでください。
- 冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行って

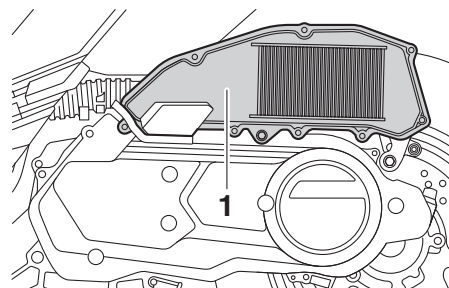
ださい。

JAUT5840

エアクリーナーエレメント、Vベルトフィルターエレメント

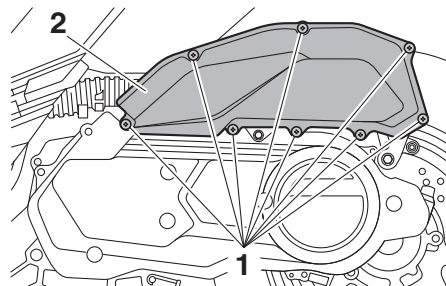
エアクリーナーエレメントは20000 km走行ごとに交換してください。Vベルトフィルターエレメントは10000 km走行ごとに点検、清掃してください。ただし、ほこりの多い場所や湿気が多い場所を走行する機会が多い場合は、上記よりも短い距離で交換または点検、清掃を行ってください。

す。



エアクリーナーエレメントの交換

1. メインスタンドを立てます。
2. スクリューを外し、エアクリーナーケースカバーを取り外します。



1. スクリュー
2. エアクリーナーケースカバー
3. エアクリーナーエレメントを取り外しま

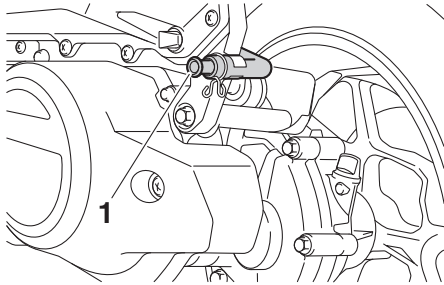
1. エアクリーナーエレメント
4. 新しいエアクリーナーエレメントをエアクリーナーケースに取り付けます。
5. エアクリーナーケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。

JCA11951

注意

- エアクリーナーエレメントがエアクリーナーケースに正しく装着されていることを確認してください。
- エアクリーナーエレメントを取り付けないうままエンジンを始動しないでください。エンジンの故障の原因となります。

ブローバイガス還元装置のブリーザードレンホースの清掃

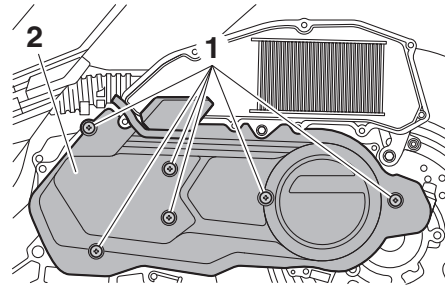


1. ブローバイガス還元装置のブリーザードレンホース

1. ブリーザードレンホースを点検し、汚れや水がたまっていないか確認します。
2. 汚れや水があった場合は、ブリーザードレンホースを取り外して清掃し、元に戻します。

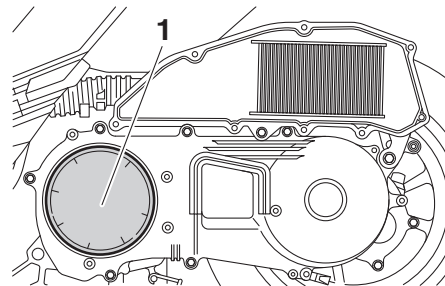
V ベルトフィルターエレメントの清掃

1. メインスタンドを立てます。
2. エアクリーナーケースカバーを取り外します。
3. スクリューを外し、V ベルトフィルターケースカバーを取り外します。



1. スクリュー
2. V ベルトフィルターケースカバー

4. V ベルトフィルターエレメントを取り外します。



1. V ベルトフィルターエレメント
5. V ベルトフィルターエレメントをきれいな灯油で洗浄し、軽くしぼります。

警告

ガソリンや引火性の高い洗浄剤は引火のおそれがありますので、使用しないでください。

6. 布切れなどでV ベルトフィルターエレメントを包み、乾かします。
7. V ベルトフィルターエレメントの損傷を点検します。損傷している場合は交換します。
8. ヤマルーブフィルターオイルをV ベルトフィルターエレメントの表面全体に塗布してから、布切れなどで包み、しぼります。
9. V ベルトフィルターエレメントをV ベルトフィルターケースに取り付けます。

JCA13031

注意

V ベルトフィルターエレメントは確実に装着してください。

要点

エレメントを取り付ける際、黄色の面（比較的粗い面）をエアクリーナーケースカバー（手前）の方へ向けます。

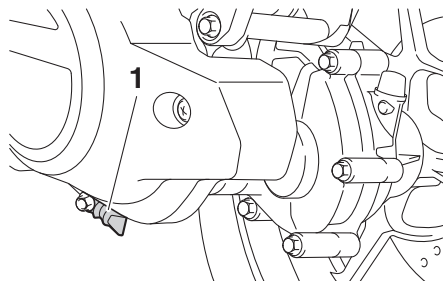
10. V ベルトフィルターケースカバーを取り

点検整備

付け、スクリューを締め付けます。

11. エアクリーナーケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。

Vベルトケースチェックホースの清掃



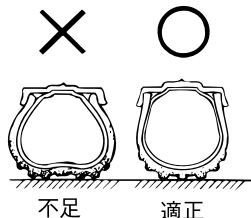
1. Vベルトケースチェックホース

1. Vベルトケースチェックホースを点検し、汚れや水がたまっていないか確認します。
2. 汚れや水があった場合は、Vベルトケースチェックホースを取り外して清掃し、元に戻します。

タイヤ

空気圧

JAU31013



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。

タイヤ空気圧：

1 名乗車：

前輪：

200 kPa (2.00 kgf/cm²)

後輪

200 kPa (2.00 kgf/cm²)

2 名乗車：

前輪：

200 kPa (2.00 kgf/cm²)

後輪

225 kPa (2.25 kgf/cm²)

要 点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

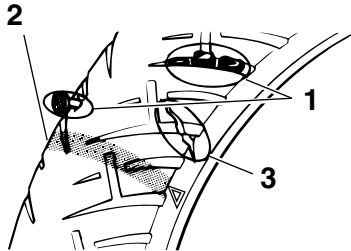
JAU28642

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

この車はチューブレスタイヤを装着してい

ます。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケータ（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要 点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28744

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケータで点検します。ウェアインジケータがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要 点

- ウェアインジケータはタイヤの溝が 0.8mm になるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性を確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に原付のタイヤは前輪、後輪とも溝の深さが 1.6mm 以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

警告

- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。**
- 過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり

減ったタイヤは交換してください。

- **タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**

タイヤサイズ：

- 前輪：
110/70-12 47L
- 後輪：
130/70-12 56L

指定タイヤ：

- 前輪：
MAXXIS/MA-R1N
- 後輪：
MAXXIS/MA-R1N

点検整備

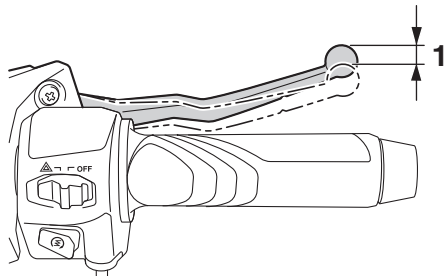
ブレーキレバーの遊び、きき具合の点検

JAUT5300

ブレーキレバーの遊びの点検

フロントブレーキ、リヤブレーキとも、ブレーキレバーを軽く握り、抵抗を感じるまでのレバー先端部の遊びが規定の範囲にあるかを点検します。

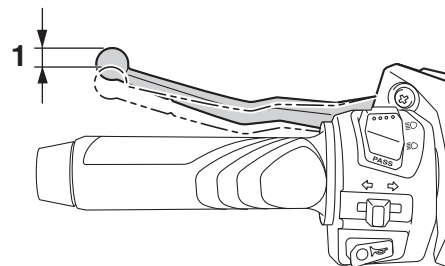
<フロントブレーキ>



1. 遊び

フロントブレーキレバーの遊び
0.0-2.0 mm

<リヤブレーキ>



1. 遊び

リヤブレーキレバーの遊び
10.0-20.0 mm

点検の結果、遊びが規定の範囲にない場合は、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11751

警告

ブレーキレバーの引き具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リ

ヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

警告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

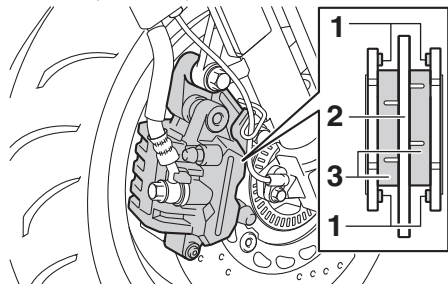
JAU29561

ブレーキパッドの点検

ブレーキパッドのインジケータとブレーキディスクのすき間で摩耗の状態を点検します。

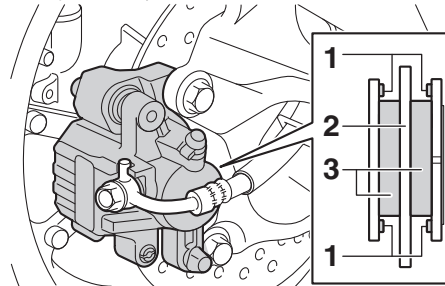
インジケータとブレーキディスクのすき間がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドを交換してください。

<フロントブレーキ>



1. インジケータ
2. ブレーキディスク
3. ブレーキパッド

<リアブレーキ>

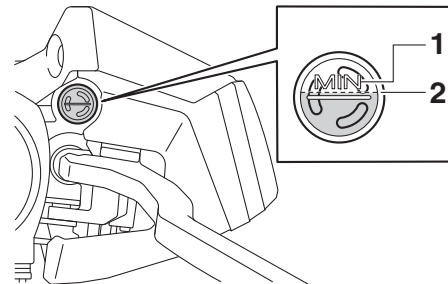


1. インジケータ
2. ブレーキディスク
3. ブレーキパッド

JAUT4021

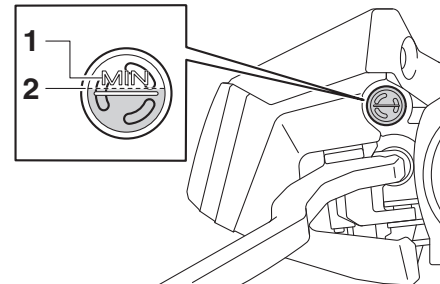
ブレーキ液量の点検

<フロントブレーキ>



1. MIN マーク
2. ロアレベル

<リアブレーキ>



1. MIN マーク
2. ロアレベル

平坦な場所でメインスタンドを立て、ブレーキ液量点検窓の「MIN」マークが水平になる

点検整備

ようにして、ブレーキリザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。

液量がロアレベル以下のときは、販売店へブレーキ液の補給を依頼してください。

JWA12152

警告

- ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキシステムの液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。
- ブレーキ液は安全のために2年ごとに交換してください。

バックミラー

JAU28604

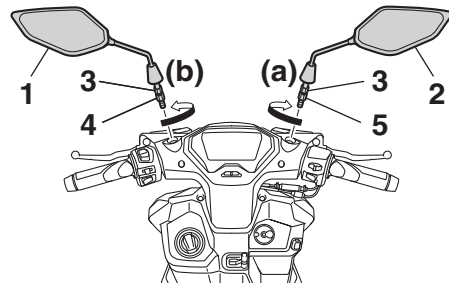
バックミラーの脱着のしかた

- 右バックミラーは左ネジです。右バックミラーを取り外すときは、右バックミラー取り付けボルトを時計回り (a) 方向に回します。
- 左バックミラーは右ネジです。左バックミラーを取り外すときは、左バックミラー取り付けボルトを反時計回り (b) 方向に回します。

JCA15691

注意

可倒部分締め付けナットは、ゆるめないでください。



1. 左バックミラー
2. 右バックミラー
3. 可倒部分締め付けナット
4. 左バックミラー取り付けボルト
5. 右バックミラー取り付けボルト

- バックミラーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

車体各部の給油脂状態の点検

JAU28621

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

バッテリー

JAU28762

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。バッテリー液の補充、点検は不要です。バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811



警告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しのよいところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。

- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。

- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

JCA12142

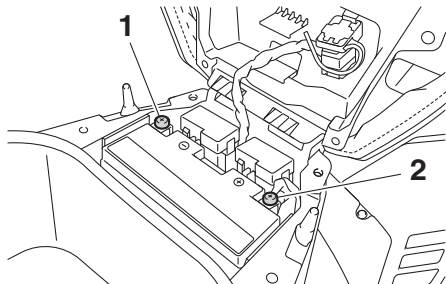
注意

- このバッテリーは密閉式の12Vです。
- このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。
- 補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。
- 長期間ご使用にならないときは、3か月ごとに補充電してください。
- バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。

バッテリーの取り外し

JAUT5900

1. メインスイッチを OFF にします。
2. シートを開けます。(3-14 ページ参照)
3. カバー A を取り外します。(6-2 ページ参照)
4. - (マイナス) 側リード線を外し、次に + (プラス) 側リード線を外します。



1. -リード線
 2. +リード線
5. バッテリーを取り外します。

バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JCAT1371

注意

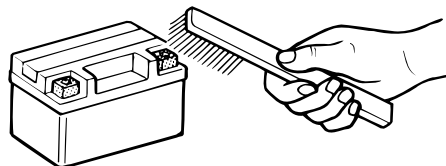
バッテリー交換後または充電後は、エンジン

を始動する前にメインスイッチを 1 回 ON にして 5 秒以上待ち、次に OFF にして 5 秒以上待つ操作を 2 回繰り返してください。その後、エンジンを始動します。

ターミナル部の清掃

JAU29411

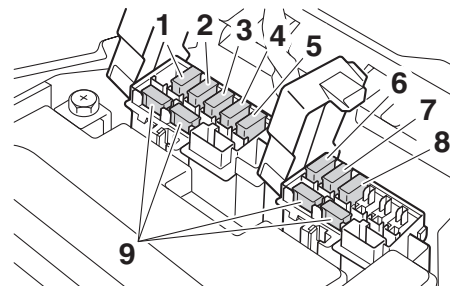
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。



ヒューズ交換

JAUT5580

ヒューズボックスは、シートの下にあります。(3-14 ページ参照)

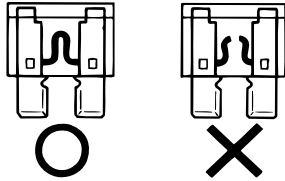


1. シグナルヒューズ
2. シグナルヒューズ 2
3. イグニッションヒューズ
4. ヘッドライトヒューズ
5. ターミナルヒューズ
6. メインヒューズ
7. バックアップヒューズ
8. バックアップヒューズ 2
9. スペアヒューズ

ヒューズが切れた場合は、以下のように交換します。

1. メインスイッチを OFF にします。
2. シートを開けます。(3-14 ページ参照)
3. カバー A を取り外します。(6-2 ページ参照)

4. ヒューズボックスカバーの、横を押しながら上にあげてカバーを開けます。



5. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。

JCAT1382

注意

- 交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。
- 電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。
- 洗車時、ヒューズホルダーのまわりに水を強く吹き付けしないでください。漏電や短絡

（ショート）の原因になります。

- メインヒューズまたはバックアップヒューズ交換後は、エンジンを始動する前にメインスイッチを 1 回 ON にして 5 秒以上待ち、次に OFF にして 5 秒以上待つ操作を 2 回繰り返してください。その後、エンジンを始動します。

規定ヒューズ：

メイン：
30.0 A
ヘッドライト：
10.0 A
シグナル：
10.0 A
シグナル 2：
7.5 A
イグニッション：
10.0 A
バックアップ：
7.5 A
バックアップ 2：
7.5 A
ターミナル：
7.5 A

6. メインスイッチを ON にし、装置が正し

く作動することを点検します。

要点

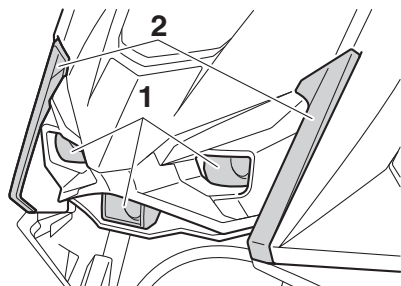
ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

7. カバー A を取り付けます。
8. シートを閉めます。

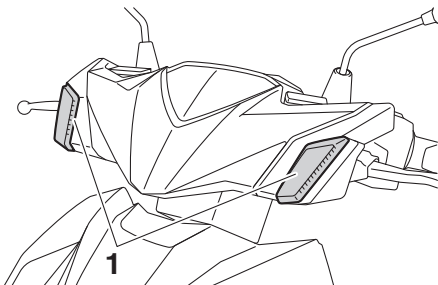
点検整備

JAU29448

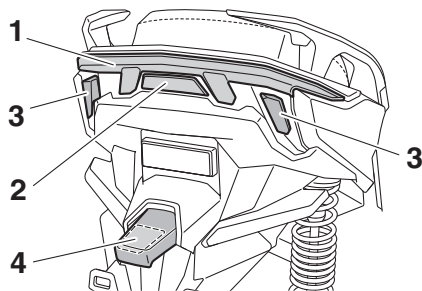
灯火装置および方向指示灯の点検



1. ヘッドライト
2. マーカーランプ



1. 方向指示灯 (前)



1. テールランプ
2. ブレーキランプ
3. 方向指示灯 (後)
4. 番号灯

1. 車両の電源をオンにします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検 (6-15 ページを参照) し、異常がないときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JCA12063

注意

電球は、指定されているワット数・規格のも

の (8-1 ページ「製品仕様」を参照) を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

JAU29571

運行において異常が認められた箇所 の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

JAU29571

こんなときは

こんなときは、ヤマハ販売店にご相談される前に次のことを調べてください。

エンジンが始動しないときは？

次の項目を確認してください。

1. メインスイッチは ON になっていますか？
 2. ガソリンはありますか？
 - 燃料計にてガソリン量を確認してください。
 - 燃料計のセグメントの数が1つになったときは、最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
 3. リヤブレーキレバーを握ってスタータースイッチを押しましたか？
 4. スロットルグリップを回さずにスタータースイッチを押しましたか？
 5. サイドスタンドを使用していませんか？
- 以上のことを確認してから、5-1 ページの「エンジンのかけかた」の方法でエンジンをかけなおしてください。

スターターが回らないときは？

スタータースイッチを押してもスターターが回らないときは、次の項目を確認してくだ

JAUT4890

さい。

1. メインスイッチは ON になっていますか？
 2. リヤブレーキレバーを握ってスタータースイッチを押しましたか？
 3. サイドスタンドを使用していませんか？
- 以上のことを確認しても、スターターが回らないときは・・・

- メインスイッチを ON にして、ホーンスイッチを押します。ホーンが鳴らないときは、ヒューズ切れが考えられます。6-15 ページを参照してヒューズを点検してください。
- ヒューズに異常がないときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ランプ類が点灯しないときは？

次の順序で点検してください。

1. メインスイッチが ON になっていますか？（ヘッドライトの場合はエンジンが始動していますか？）
2. 各スイッチを作動させていますか？
3. ホーンスイッチを押したときに、ホーンは鳴りますか？
 - ホーンが鳴るときは、ランプ自体の球切れが考えられます。8-1 ページの規格に合わせて、同じものと交換してく

点検整備

ださい。

- ホーンが鳴らないときは、ヒューズが切れていることがあります。6-15ページを参照してヒューズを点検してください。

JCA12063

注意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（8-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

6

走行中にエンジンが止まったときは？

ガソリンはありますか？

燃料計でガソリン量を確認してください。燃料計のセグメントの数が 1 つになったときは、最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

上記のことを確認してから、5-1 ページの「エンジンのかけかた」の方法でエンジンをかけなおしてください。

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。

すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

注意

- 洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。
- ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。
- コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。

JAU27977

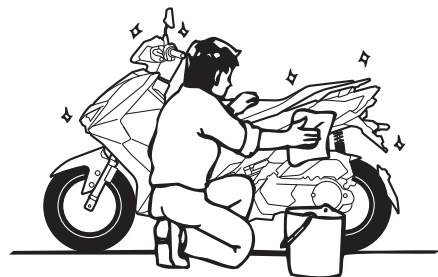
洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、十分に水洗いします。洗車後は柔らかい布で水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）

ワックス：

ユニコンカークリーム



JWA11931

警告

- 洗車はエンジンが冷えているときにして

ください。

- 洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。
- ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。

JCA12215

注意

- エアクリナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。
- ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入っ

お車の手入れ

たワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。

- ウィンドスクリーン、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが十分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。
- 高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。

要 点

洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

JAU27991

キャストホイールの取り扱い

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。

(工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。)

洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。

長期間お手入れをしませんと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11951

警告

変形したり、損傷したキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12221

注意

- 縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。
- アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを

走った後は、すぐに水洗いをしてください。

JAU35912

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。



JCA13111

注意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- 保管する前にワックスがけをしてください。(マット塗装部分を除く) サビを防ぐ効果があります。
- バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3か月ごとに補充電を行ってください。
- 長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。

※ 補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28087

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU88210

ヤマハ純正オイル

ヤマルーブブルーバージョン for スクーター

スクーター用低フリクションオイル

高回転かつ高温で運転される二輪車エンジン特有の要求性能に合わせて開発された部分合成ベースオイルに、摩擦低減剤を多く配合した4サイクルスクーター向けエンジンオイルです。

摩擦低減剤の作用により、アイドリング安定性・省燃費・出力向上などの効果が期待できます。

ヤマルーブ RS4GP

ヤマルーブシリーズ最高峰エンジンオイル。高負荷、高回転での過酷な条件に耐える油膜保持性、せん断安定性に優れ、長時間安定して高い潤滑性能を発揮します。

お車の手入れ

低摩擦特性・高い油膜保持性により、優れたスロットルレスポンスとシフトフィーリングを長時間安定して発揮します。

ヤマルーブプレミアムシンセティック

中・大型車両に最適な高品質二輪車用オイル。

大排気量モデルでの夏場の渋滞運転などエンジンには過酷な状況に強いオイル。

高温高負荷状況下で蒸発が少なく、高い酸化安定性能と油膜保持性能を発揮します。

からタフな業務使用まで幅広い用途に対応。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、次のURLを入力してホームページを参照するか、

「ヤマハ バイク オイル」というキーワードで検索してください。

<https://www.ysgear.co.jp/mc/>

ヤマハ バイク オイル

検索



7

ヤマルーブスポーツ

走行シーンを選ばないミドルグレードオイル。

価格と性能のバランスに優れ、排気量や車種を問わないオイル。

ストリートからロングツーリングまであらゆる走行シーンで安定した性能を発揮します。

ヤマルーブスタンダードプラス

経済的にも優れた、コストパフォーマンスオイル。

工場出荷時にも充填されるベーシックオイル（一部車種を除く）。

コストパフォーマンスに優れ、スポーツ走行

寸法：	動弁機構：	リヤタイヤ：
全長：	SOHC	種類：
1865 mm	気筒数：	チューブレス
全幅：	単気筒	サイズ：
715 mm	総排気量：	130/70-12 56L
全高：	124 cm ³	メーカー / 銘柄：
1125 mm	ユニファイドブレーキ：	MAXXIS/MA-R1N
シート高：	作動方式：	エレクトリカル：
785 mm	リヤブレーキ連動式	電圧：
軸間距離：	フロントブレーキ：	12V
1340 mm	ブレーキ形式：	バルブワット数：
最低地上高：	油圧式シングルディスクブレーキ	ヘッドライト：
125 mm	指定ブレーキフルード：	LED
重量：	BF-4 (DOT-4)	ブレーキ / テールランプ：
車両重量：	リヤブレーキ：	LED
126 kg	ブレーキ形式：	方向指示灯 (後)：
乗車定員：	油圧式シングルディスクブレーキ	LED
2 名	指定ブレーキフルード：	番号灯：
性能：	BF-4 (DOT-4)	5.0 W
最小回転半径：	フロントタイヤ：	マーカーランプ：
2.0 m	種類：	LED
エンジン：	チューブレス	エンジンオイル：
行程：	サイズ：	推奨オイル：
4 ストローク	110/70-12 47L	ヤマーブ Blue ver. For Scooter、
冷却方式：	メーカー / 銘柄：	RS4GP、プレミアムシンセティック、
水冷	MAXXIS/MA-R1N	スポーツ、スタンダードプラス

製品仕様

エンジンオイル量：

オイル交換時：
0.90 L

ファイナルギヤオイル：

推奨オイル：
ヤマルーブギヤオイル
オイル量：
0.10 L

冷却水容量：

リザーブタンク (FULL レベルまで)：
0.13 L
ラジエターと全ての経路：
0.46 L

バッテリー：

バッテリー型式：
GT7B-4
バッテリー容量：
12 V, 6.5 Ah (10 HR)

スパークプラグ：

メーカー / 型式：
NGK/CPR8EA-9
プラグギャップ：
0.8-0.9 mm

二輪車を廃棄する場合は？

JAU36645

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1

1. 廃棄二輪車取扱店の証

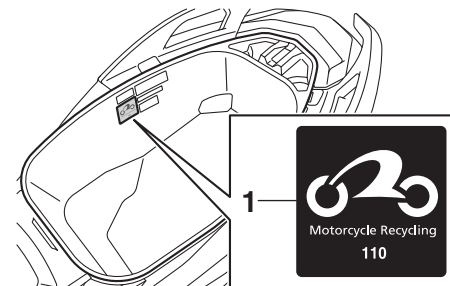
リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用を

メーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうか不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。
ヤマハ発動機（株） 二輪車リサイクルシステム

<https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/>
公益財団法人 自動車リサイクル促進センターホームページ
<https://www.jarc.or.jp/motorcycle/>

ユーザー情報

JAU28393

サービスマニュアル(別売)の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。

サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

サービスマニュアル 部品番号：

QQS-CLT-000-DR2

JAU50235

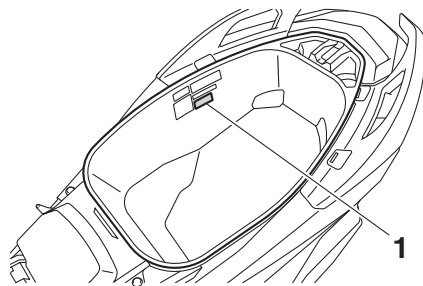
車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。

モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。

モデルラベルは、トランク内に貼り付けてあります。



1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。

車名は

CYGNUS X

モデルラベル

製品仕様を示しています。

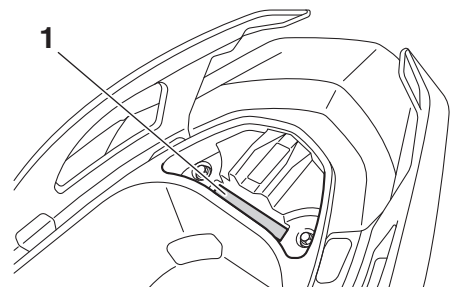


カラーリングを示しています。



JAU50501

車台番号



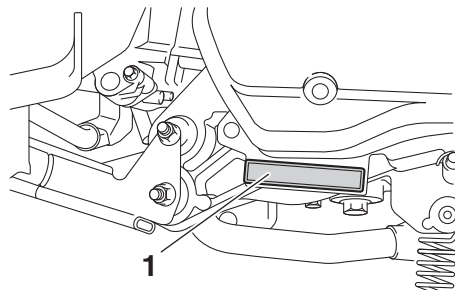
1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

原動機番号

JAU50511

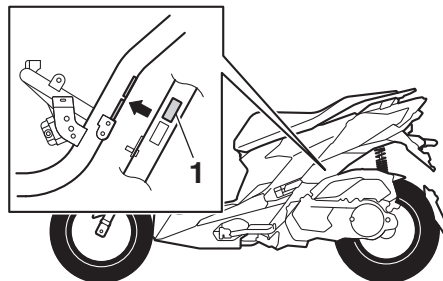


1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

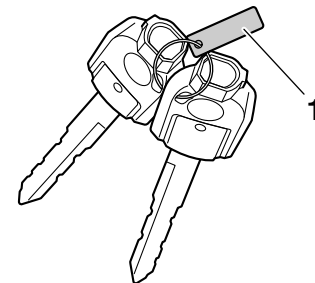
型式認定番号

JAU50522



1. 型式認定番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

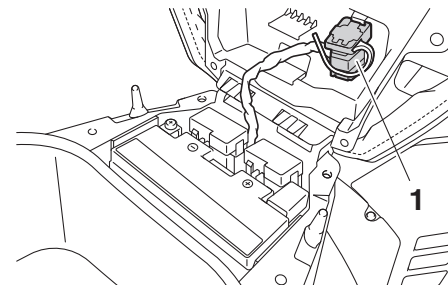


1. キー番号

キー番号記入欄：

故障診断コネクタ

JAU73861



1. 故障診断コネクタ

この車には故障診断コネクタが搭載され

ユーザー情報

ています。

車両情報の記録に関して

これはヤマハ発動機（以下、当社といいます）の車両情報利用についての概要です。詳細については、当社 WEB サイトのプライバシー・ポリシーをご確認ください。

<https://global.yamaha-motor.com/jp/privacy/>

車両情報の記録と収集方法

この車両に搭載されているコンピューターは、次の3種類の車両情報を記録しています。

- 1) 車体番号
- 2) エンジン / モーターの使用状況、車速、走行距離などの車両稼働状況の情報
- 3) 故障診断コード（DTC）など、車両の状態を示す情報

記録した車両情報は車両点検や修理の際にヤマハ車専用の故障診断ツールを接続した場合に限り、当社のサーバーに送信されます。

車両情報の利用目的

当社は収集した車両情報を以下の目的で使用します。

- 1) 適切なメンテナンスや故障探求のため
- 2) 適正な保証修理判定のため
- 3) 製品の研究開発
- 4) 製品、機能、およびサービスの品質向上のため
- 5) その他の事業目的を達成するため
- 6) 法的義務の履行や係争事案対応のため

車両情報の提供に関して

利用目的の達成に必要な範囲内で、子会社、関連会社、業務提携会社、ヤマハ販売店、および業務委託先に情報を提供する場合があります。

お問い合わせ窓口

車両情報の取扱いに関する請求、質問やご要望がある場合は、以下のメールアドレスにお問合せください。

ユーザー情報

ヤマハ発動機株式会社

〒 438-8501 静岡県磐田市新貝 2500

dpo@yamaha-motor.co.jp

こちらの連絡先は、車両情報収集に関するお問い合わせのみに使用させていただいております。

関連のないお問合せをいただいた場合、回答できない場合がございます。あらかじめご了承ください。

お客様のご要望に的確にお応えするため、ご連絡いただく際には、**お客様の名前、住所、電話番号、メールアドレス等の連絡先と車体番号**をお知らせください。ご連絡いただいた内容に不明な点がある場合は、お客様にご連絡させていただきます。なお、確認が取れない場合はご要望に応じられない可能性があります。

- U**
USB Type-C ジャック 3-19
- あ**
あなた自身と同乗者のために 1-1
アフターケア用品について 7-3
- う**
運行において異常が認められた
箇所の点検 6-18
- え**
エアクリーナーエレメント、
Vベルトフィルターエレメント 6-7
エンジンオイル 6-3
エンジン警告灯 3-4
エンジン始動 5-1
エンジンのかかり具合、異音の
点検 6-5
- か**
加速と減速 5-3
型式認定番号 9-3
カバーの取り外し、取り付け 6-2
環境・住民の方との調和のために 1-6
- き**
キーシャッター 3-3
キーの取り扱い 3-1
キー番号 9-3
キャストホイールの取り扱い 7-2
- け**
警告灯と表示灯 3-3
原動機番号 9-3
- こ**
故障診断コネクタ 9-3
こんなときは 6-18
- さ**
サービスツール 6-2
サービスマニュアル（別売）の
紹介 9-2
サイドスタンド 3-20
- し**
シートの開閉（シートロック
オープナーの使いかた） 3-14
車体各部の給油脂状態の点検 6-14
車台番号 9-2
車両情報 9-2
車両情報の記録に関して 9-5
書類入れ 3-16
- す**
スタータースイッチ 3-10
スタンディングハンドル 3-19
- せ**
洗車 7-1
- た**
タイヤ 6-9
タンデムフットレスト 3-15
- ち**
駐車 5-4
- て**
低速、加速の状態の点検 6-5
点検整備の実施 6-1
- と**
灯火装置および方向指示灯の
点検 6-17
トラクションコントロール
システム 3-11
トラクションコントロール
システム表示灯 3-4
トランク 3-17
- な**
ならし運転 5-1
- に**
日常点検箇所／点検内容 4-1
日常点検の実施 4-1
二輪車を廃棄する場合は？ 9-1
- ね**
燃料 3-14
- は**
ハザードスイッチ 3-10
バックミラー 6-13
発進 5-2
バッテリー 6-14
ハンドルスイッチ 3-9
- ひ**
ヒューズ交換 6-15
- ふ**
ファイナルギヤオイルの交換時期 6-4
フューエルタンクキャップ 3-13
ブレーキ 5-3
ブレーキ液量の点検 6-12
ブレーキパッドの点検 6-12
ブレーキレバーの遊び、きき具合
の点検 6-11
フロントフック 3-17
フロントブレーキレバー 3-11
フロントポケット 3-17

索引

へ	
ヘッドライト/パッシングライト	
スイッチ	3-10
ヘルメットホルダー	3-16
ほ	
ホーンスイッチ	3-10
方向指示器スイッチ	3-10
保管のしかた	7-3
歩行者と他の車のために	1-5
ま	
マルチファンクション	
ディスプレイ	3-5
め	
メインスイッチ	3-1
も	
モデルラベル	9-2
り	
リヤクッションの調整	3-18
リヤブレーキレバー	3-11
れ	
冷却水	6-6

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの
巻末をご覧ください。



QQS-CLT-100-DR2